

小学校における「休み時間」の研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北川, 陽二 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/36116

小学校における「休み時間」の研究

学校教育教員養成課程 97 - 40 北川陽二

1. 研究の目的

「友達と話をするとき、どんな話をすればよいのかわからないので、休み時間はひとりぼっちになってしまうんです。何か話しかけられると恐ろしいから、びくびくしています。休み時間は少しも楽しくありません。昼休みは、もっと長い時間なので、とてもつらいんです。」

これは、ある小学校の女子児童の言葉である。一般的に子どもにとって学校の休み時間といえは、自由に遊ぶことができ、楽しみにしている時間という印象を持ってしまう。しかしこの児童のように、休み時間を楽しんでいると感じていない子もいる。自由な時間だからといってすべての子どもが自由にのびのびと遊んでいるわけではないようだ。ではいったい、子どもの感じている休み時間の楽しさとは何であろう。何をして過ごしている子が休み時間を楽しんでいるのだろうか。このような疑問をもったことが、小学校の休み時間に注目した発端である。

現在の子どもの遊びについて「遊びの内容は、大人がイメージするような『戸外で』『仲間と』『体を動かして』『日常的に』あそぶ遊びには今の子どもはなじまなくなっている」といわれている。そのような中で、学校の休み時間は、遊びに必要な時間・場所・仲間が日常的に確保されている貴重な機会である。さらに、新指導要領の改訂により各学校における弾力的な時間割編成が可能になり、休み時間の取り方や長さも工夫して計画できるようになった。このことから、休み時間に注目することは今日的意義があると考えられる。

そこで、本研究では休み時間について、次の3つの点に注目することとした。

1. 休み時間の活動と休み時間に対する意識の実態
2. 休み時間の楽しさと学校生活への満足度との関係
3. 休み時間の運動遊びと体育授業の楽しさとの関係

2. 研究の方法

調査方法 質問紙法調査

調査対象 調査は、石川県の小松市、能美郡、松任市、河北郡、石川郡の小学校各1校ずつ計5つの小学校4・5・6年生（各学年1クラスずつ）の児童を対象とした。配布数は495部、回収数は488部（回収率98.6%）、有効標本数は488部（有効標本率100%）であった。

調査期間 平成12年11月8日から平成12年12月1日まで

調査内容 1. 休み時間の過ごし方と休み時間の楽しさ

(1) 休み時間の過ごし方

1. ある特定の日における休み時間の活動実態

2. 昼休みの遊び習慣

(2) 休み時間の楽しさ

2. 学校生活への満足度

3. 体育授業の楽しさ

3. 結果及び考察

1. 休み時間の活動の実態

1. 遊び場所

休み時間によって遊び場所がどのように異なるかを明らかにするため、回答数の多かった運動場、体育館、教室、図書室、廊下の5箇所を取り上げて集計を行った。それぞれの休み時間と遊びの場所については表1に示す通りである。

1限と2限の間の休み時間および3限と4限の間の休み時間では、いずれの学校でも5～10分と時間が短いためか教室で過ごす児童が半数以上である。特に、1限と2限の間の休み時間については3/4以上の児童が教室で過ごしている。一方、2限と3限の間の休み時間では、教室で過ごす児童の割合が少なくなり、運動場や体育館で過ごす者が多くなっている。昼休みでは、さらにこの傾向が強くなり、教室で過ごす児童は1/4程度と割合が低く、運動場・体育館で遊ぶ児童が41%と高くなっている。これらのことから、休み時間が長いほど児童は教室外に出て大きな空間で遊ぶようになる傾向が伺える。

2. 遊ぶ人数

表2は休み時間における遊び仲間の人数を、「1人」、「2人～5人」、「6人～10人」、「10人以上」と分類し、各休み時間ごとに集計したものである。どの時間も、「2人～5人」が最も多くなっており、少人数での活動が中心となっていることがわかる。また、「1人」と回答した児童も、割合こそ2割に満たないが、人数としては看過できない数である。だが、昼休みになると「2人～5人」と「1人」の割合が減り、「6人～10人」が26.9%、「10人以上」が21.9%と割合が増えており、合わせると約半数程度の児童が6人以上の集団で遊んでいる。つまり休み時間が長くなれば集団の大きさも大きくなることが明らかとなった。

3. 活動内容

休み時間によって活動内容がどのように異なるのかを明らかにするため、回答結果を次のようにカテゴリー化した。すなわち、児童が行った遊びを「動的な遊び」と「静的な遊び」にわけ、それ以外の活動として回答数を参考に「係りや委員会の仕事」、「授業・勉強」、「何もしない」に区分した。

表3は、各休み時間別に活動内容を示したものである。この結果から、休み時間の長さによって「動的な遊び」と「静的な遊び」に明らかな差が見られた。時間の短い1限と2限の間の休み時間では「動的な遊び」が16.6%、「静的な遊び」が67.5%、3限と4限の間の休み時間では「動的な遊び」が11.6%、「静的な遊び」が53.2%で、「静的な遊び」が中心であり、活動内容の半数以上を占めている。一方、時間の長い2限と3限の間の休み時間では「動的な遊び」が44.4%、「静的な遊び」が43.2%。昼休みでは「動的な遊び」が54.7%、「静的な遊び」が30.7%と時間の短い休み時間に比べて「動的な遊び」の割合が3～5倍に増えている。このことから、休み時間が長くなれば体を動かす遊びが増える傾向があると考えられる。

2. 休み時間の楽しさと学校生活への満足度との関係

表4は、学校生活の満足度と休み時間の楽しさ要素との相関係数を示したものである。「コミュニケーション」、「開放感」、「運動遊び」、「遊びの内容」、「教師」の要素が学校生活の満足度と有意に関連していることが明らかになった。中でも、相関が高いのは「コミュニケーション」、「運動遊び」、「教師」であり0.1%水準で有意な相関が認められた。このこと

から、学校生活への満足度に関連のある休み時間の楽しさは2つにまとめることができると考える。

一つは、“人間関係”である。「コミュニケーション」の楽しさは友達と一緒におしゃべりしたり遊んだりするのが楽しいという“友人との関係”であり、「教師」の楽しさは教師としゃべったり遊んだりするのが楽しいという“教師との関係”である。つまり2つの要素に共通するものは良好な人間関係の中から生じる楽しさである。

もう一つは、“運動遊び”である。実際に、運動場や体育館で生き生きと体を動かして遊んでいる児童を見ると、活気があり学校生活も毎日が楽しいのではないだろうかと感じることが多い。それは、体を動かして運動する、スポーツするという特有の楽しさや喜びは、小学生に与える影響が大きいからではないだろうか。

3. 休み時間の運動遊びと体育授業の楽しさとの関係

「昼休みの運動遊び」の頻度を「よくする」から「まったくしない」までの4群に分類し、体育授業の楽しさの要素得点を比較した(表5)。

まず、すべての体育授業の楽しさ要素について0.1%水準で有意な差が認められた。このことから、昼休みの運動遊びの頻度の違いによって体育授業の楽しさの認知が異なることが明らかとなった。よって、休み時間に運動遊びを積極的にしている児童は、体育の授業の様々な楽しさを十分に味わっていることが明らかになった。

次に、F値の大きさに注目すると、昼休みの運動遊びの頻度との関連が強かったのは「レクリエーションと健康」(思いきり運動し、そのことによって体への効果が得られることの楽しさ)及び「能力の認知」(自己の能力の自信に伴う楽しさ)であった。

運動遊びを「よくする」児童は、「教授行動」を除くすべての要素においてどの群よりも有意に高くなっている。「ときどきする」児童についても、すべての要素において「あまりしない」「まったくしない」の2群よりも有意に高くなっていた。すなわち、休み時間に運動遊びをしない児童は、体育授業の「楽しさ」をあまり感じておらず、体育授業の「楽しさ」を強く感じていれば感じているほど、昼休みの運動遊びの頻度も高くなっている。

4. 結論

1. 休み時間の活動と休み時間に対する意識の実態

休み時間が長くなると、運動場や体育館など大きな空間で遊ぶ児童が多く、集団の大きさも大きくなり、また体を動かして行う遊びをする児童が増える。よって休み時間の長さ、遊び場所、遊び人数、活動内容には関連があるといえる。

2. 休み時間の楽しさと学校生活への満足度との関係

全体的に休み時間の楽しさは、学校生活の満足度と関連があり、特に学校生活の満足度に強く関連している休み時間の楽しさは「コミュニケーション」と「運動遊び」であった。

3. 休み時間の運動遊びと体育授業の楽しさとの関係

体育の授業で様々な楽しさを認知し、楽しさを強く感じている児童は休み時間においても運動遊びを積極的にしていることが明らかとなった。また、休み時間の運動遊びに関連の強かった体育授業の楽しさは「レクリエーションと健康」と「能力の認知」であった。

表1 各休み時間の遊び場所

	1・2		2・3		3・4		昼	
運動場	3	0.6%	71	14.9%	9	1.9%	114	23.8%
体育館	20	4.1%	59	12.4%	11	2.4%	81	16.9%
教室	363	75.3%	190	39.8%	253	54.2%	118	24.6%
図書室	3	0.6%	18	3.8%	15	3.2%	21	4.4%
廊下	36	7.5%	30	6.3%	23	4.9%	29	6.1%
その他	57	11.8%	109	22.9%	156	33.4%	116	24.2%
合計	482	100.0%	477	100.0%	467	100.0%	479	100.0%

注) 1・2:1限と2限の間の休み時間
 2・3:2限と3限の間の休み時間
 3・4:3限と4限の間の休み時間
 昼:昼休み

表2 各休み時間と遊びの人数

	1・2		2・3		3・4		昼	
1人	75	15.7%	67	14.1%	78	17.8%	46	9.6%
2人~5人	296	61.9%	265	55.8%	230	52.4%	199	41.5%
6人~10人	54	11.3%	68	14.3%	39	8.9%	129	26.9%
10人以上	53	11.1%	75	15.8%	92	21.0%	105	21.9%
合計	478	100.0%	475	100.0%	439	100.0%	479	100.0%

注) 1・2:1限と2限の間の休み時間
 2・3:2限と3限の間の休み時間
 3・4:3限と4限の間の休み時間
 昼:昼休み

表3 各休み時間と活動内容

	1・2		2・3		3・4		昼	
動的な遊び	79	16.6%	211	44.4%	54	11.6%	260	54.7%
静的な遊び	322	67.5%	205	43.2%	248	53.2%	146	30.7%
係りや委員会の仕事	0	0.0%	15	3.2%	12	2.6%	36	7.6%
授業・勉強	51	10.7%	27	5.7%	134	28.8%	22	4.6%
何もしない	25	5.2%	17	3.6%	18	3.9%	11	2.3%
合計	477	100.0%	475	100.0%	466	100.0%	475	100.0%

注) 1・2:1限と2限の間の休み時間
 2・3:2限と3限の間の休み時間
 3・4:3限と4限の間の休み時間
 昼:昼休み

表4 休み時間の楽しさ要素と学校生活への満足度との関係

休み時間の楽しさ	相関係数
コミュニケーション	0.305***
開放感	-0.100*
休憩	0.027
運動遊び	0.220***
自由	-0.023
静的な遊び	0.145**
教師	0.208***

注) ***:p<0.001
 **:p<0.01
 *:p<0.05

表5 運動遊びの頻度別に見た「体育授業の楽しさ」の得点比較

楽しさの要素	運動遊びの頻度	n	MEAN	S.D.	F値	MRT
能力の認知	よくする	236	3.44	1.06	37.71***	1>2,3,4
	ときどきする	138	2.92	0.87		
	あまりしない	51	2.28	0.68		
	まったくしない	45	2.13	0.89		
統制感	よくする	236	4.03	0.92	32.21***	1>2,3,4
	ときどきする	138	3.63	0.93		
	あまりしない	51	3.14	0.82		
	まったくしない	45	2.74	1.13		
自己決定	よくする	236	3.71	0.97	22.84***	1>2,3,4
	ときどきする	138	3.36	0.95		
	あまりしない	51	2.85	0.72		
	まったくしない	45	2.68	1.05		
教授行動	よくする	236	3.14	1.02	17.87***	1>2,3,4
	ときどきする	138	2.88	0.91		
	あまりしない	51	2.47	0.77		
	まったくしない	45	2.13	0.95		
集団行動	よくする	236	3.83	0.90	31.55***	1>2,3,4
	ときどきする	138	3.49	0.92		
	あまりしない	51	2.93	0.83		
	まったくしない	45	2.59	1.01		
レクリエーションと健康	よくする	236	3.97	0.89	45.73***	1>2,3,4
	ときどきする	138	3.51	0.95		
	あまりしない	51	2.87	0.88		
	まったくしない	45	2.47	0.99		

注) *: p<0.05 ** : P<0.01 *** : p<0.001
 MEAN: 平均値 S.D.: 標準偏差 MRT: 多重比較検定

1=昼休みに運動遊びをよくする
 2=昼休みに運動遊びをときどきする
 3=昼休みに運動遊びをあまりしない
 4=昼休みに運動遊びをまったくしない